

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19791680
 研究課題名（和文）
 2型糖尿病患者の治療に対する意思決定を尊重した初期教育プログラムの検討
 研究課題名（英文）
 Examination of educational program that esteems decision making to the treatment of type2 diabetes.
 研究代表者
 長谷川 直人(HASEGAWA NAOTO)
 山形大学・医学部・助教
 研究者番号：00436198

研究成果の概要（和文）：

初期2型糖尿病患者の外来受診行動継続の意思決定の影響要因は、「糖尿病と合併症の認識」、「病気体験」、「主体的な健康管理意識」、「医療専門職との関係性」、「受診のしやすさ」、「健康に対する価値観」、「他者の受診勧奨」、「外来の受診経緯」であることが明らかとなった。治療中断のリスクが高い初期2型糖尿病患者の教育には受診行動支援が重要であり、初診時から患者の糖尿病や治療に対する考え方を把握し、受診継続の必要性について患者と共有することが重要と考えられた。

研究成果の概要（英文）：

The factor affecting of the decision making to continue consultation in type2 diabetes patient were “diabetes and the complication recognition”, “experience of disease” “independent health care awareness”, “relationship with medical staff”, “ease of the consultation”, “sense of values for the health”, “consultation encouragement from another person”, and “consultation process”.

Type2 diabetes patients were easy stop consultation. Therefore, it was important to support an action of the consultation in education. It was thought that it was important to grasp the way of thinking diabetes and treatment, and shared necessity consultation with a patient since the first conclusion.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	800,000	0	800,000
2008年度	400,000	120,000	520,000
2009年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	210,000	1,710,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：糖尿病，患者教育，意思決定，受診，初期

1．研究開始当初の背景

糖尿病患者にとって生活習慣の変容およびその維持は困難であり、診断後数ヵ月で食事療法実行度の低下が生じる。また、初診のみで受診を中断する患者の存在や、半年以内の受診中断が多い。QOL を著しく低下させる重篤な合併症を予防するためにも、糖尿病の初期段階の生活習慣改善と通院継続の支援が重要である。

糖尿病患者はその診断を受けた際、今までの健康状態や受療に対する認識、健康情報等を基盤とし、どのように治療を進めていくかという意思決定がなされていると考える。また、意思決定の内容は、治療の継続や生活習慣の変容に影響を及ぼしていると推測され、看護師は、患者の糖尿病治療に対する意思決定を最大限尊重しつつ、主体的に治療に取り組めるよう支援することが重要と考える。

初期の2型糖尿病患者を対象とした先行研究では、初診後に良好な食事療法を継続している患者は、糖尿病に対する重大性や合併症に対する罹患性の認識が高いこと、また、診断後、間もない時点での糖尿病に対する感情が、療養行動に影響を及ぼすことが報告されているが、診断時の治療に対する意思決定を明らかにした報告はみられていない。

2．研究の目的

治療の継続および望ましい生活習慣の獲得、維持が困難とされている、初期の2型糖尿病患者において、脳卒中や心筋梗塞、腎不全といった、QOL を著しく低下させる重篤な合併症を予防し、糖尿病を持ちながらも健全な

社会生活を確保できるよう支援することを目的とし、以下3点を明らかにした上で、患者の糖尿病治療に対する意思決定を尊重した支援プログラムを検討する。

(1) 2型糖尿病患者の糖尿病診断時の治療に対する意思決定の様式を明らかにする。

(2) 意思決定の様式と診断前の健康管理状況（受診に至った過程・既往歴・糖尿病に対する認識・健康管理の優先性）との関連を明らかにする。

(3) 意思決定の様式が診断後の生活習慣に及ぼす影響を明らかにする。

3．研究の方法

(1) 2型糖尿病患者の外来受診行動継続の意思決定の影響要因

治療に対する意思決定を尊重した初期教育プログラムを開発するためには、まず患者の受診行動継続の支援が必須となる。そのための基礎調査として、初期2型糖尿病患者の外来受診行動に関する意思決定の影響要因を明らかにすべく、血糖降下剤およびインスリン自己注射を使用しておらず、重篤な合併症を有していない患者15名に対し半構成的面接調査を行った。

分析は、内容分析の手法（K,Krippendorff 1980）に基づき実施した。調査の実施に際しては、対象施設の糖尿病診療体制、看護支援体制および外来通院状況を把握するため、事前に3日間の研修を実施したほか、糖尿病専門医や慢性病に関する質的研究者から研究計画および分析についてスーパーバイズを受け、結果の信頼性と妥当性の確保に努めた。

(2) 外来受診行動継続の影響要因の追加調査

初期2型糖尿病患者の外来受診行動に関する意思決定の様相を詳細に明らかにするために、結果で理論的飽和が得られていなかった壮年期かつ有職者の対象4名を追加し、同様の半構成的面接調査を行った。

(3) 中核病院の受診を開始する2型糖尿病患者の糖尿病の認識および受診行動に対する意思決定の影響要因

糖尿病治療においては、かかりつけ医と中核病院との連携が不可欠であると考えられており、それぞれの役割機能と治療の特徴に応じて連携の上治療を進めることが強く求められるようになった。中核病院では糖尿病治療の一環として教育入院や外来での患者教育をシステムとして整備しているが、中核病院を受診しても依然として治療中断する患者は存在し、中断抑制の効果は十分検証されていない。

本課題では、中核病院の糖尿病外来における初期教育プログラムを開発することとし、中核病院の受診を開始して半年以内の患者に対して、現在までに5名に面接調査を行い、現在、糖尿病である事実を現在どのように受け止めているか、中核病院を受診することに対する意思決定の影響要因を分析している。

4. 研究成果

(1) 初期2型糖尿病患者の外来受診行動継続の意思決定の影響要因

初期2型糖尿病患者の外来受診の影響要因として「過去の病気体験」「診察を受けることの安心感」「医師との意思疎通」「検査結果のセルフモニタリング」「合併症に対する不安」「自身の健康に対する不安」「治療と病院に対する満足感」「健康行動の優先性」「患者生活に配慮した診察予約」「診断時の説明内容」が抽出された。

さらに壮年期かつ有職者の対象4名を追加して再分析した結果、初期2型糖尿病患者の外来受診の影響要因として「糖尿病と合併症の認識」「病気体験」「主体的な健康管理意識」「医療専門職との関係性」「受診のしやすさ」「健康に対する価値観」「他者の受診勧奨」「外来の受診経緯」が抽出された。以上の結果から、初期2型糖尿病患者の受診行動支援には、患者の受診経緯を把握し、本人の病気体験の意味および健康に対する価値観を理解すること、初診時から医療チームで患者のニーズを把握できるよう努め、信頼関係を構築すること、病院組織として受診の効率化および経済的負担が軽減できるシステムを検討すること、以上を実践することで受診中断率が減少する可能性が考えられた。また、糖尿病患者の受診継続には、看護師が初診時から関わり、患者が受診や療養行動を継続することについてどのような意味づけをしているのかを把握し、継続支援の必要性について患者と共有することが重要と考えられた。

(2) 中核病院の受診を開始する2型糖尿病患者の糖尿病の認識および受診行動に対する意思決定の影響要因

分析の結果、対象者は受診行動ならびに医療者との関わりを通して、自身が糖尿病であることを自覚しており、受診の意思決定には、高血糖指摘時の受け止め方、および糖尿病に対する認識が影響していると推測された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

高橋由香利, 佐藤富美子, 長谷川直人: 2型糖尿病患者が通院中断および再開に至った要因の検討. 日本看護学会論文集(成人看護)(査読有), 38, 145 - 147, 2008

[学会発表](計3件)

長谷川直人: 2型糖尿病患者の受診行動継続の意思決定に影響を及ぼす要因. 第14回に本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2009年9月20日, 札幌

長谷川直人: 初期2型糖尿病患者の受診行動に対する意思決定の様相. 第28回日本看護科学学会学術集会, 2008年12月13日, 福岡

高橋由香利, 佐藤富美子, 長谷川直人: 2型糖尿病患者が通院中断および再開に至った要因の検討, 第38回日本看護学会(成人看護)学術集会, 2008年8月29日, 福井

6. 研究組織

(1)研究代表者

長谷川 直人(HASEGAWA NAOTO)

山形大学・医学部・助教

研究者番号: 00436198

(4)研究協力者

佐藤 和佳子(SATOH WAKAKO)

山形大学・医学部・教授

研究者番号: 30272074

佐藤 富美子(SATOH FUMIKO)

東北大学・医学部・教授

研究者番号: 40297388

加藤 丈夫(KATO TAKEO)

山形大学・大学院医学研究科・教授

研究者番号: 90194828

大門 眞(DAIMON MAKOTO)

山形大学・大学院医学研究科・准教授

研究者番号: 20241698

井瀨 奈緒美(IBUCHI NAOMI)

公立置賜総合病院・主任看護師

江口 英之(EGUCHI HIDEYUKI)

公立置賜総合病院・診療部長, 内科(糖尿病・内分泌)科長)

渡邊 祥子(WATANABE SACHIKO)

山形大学・医学部附属病院・看護師

以上